

## <令和5年度3学期 始業式>

皆さん、おはようございます。新年あけましておめでとうございます。

令和6年、2024年がスタートしました。日本の新年は激動のスタートでした。1月1日は、能登半島地震が起きました。命を落とされた方、被災された多くの方々に、心よりお見舞い申し上げます。また、1月2日は、羽田空港で航空機の衝突事故が起きました。衝撃的なニュース映像を見ながら、「まさか、このようなことが起こるとは」と思いました。

自然災害や事故もそうですが、私たちの生きる世界は、予測できないことがたくさんあります。我々の想像を超えることが起こるのが現実です。先行きが見えない状況において、不安な気持ちでいるだけでは辛いです。

ではどうすればよいのか？

1月3日の朝日新聞のオピニオン記事にヒントがありました。記事のタイトルは「答えを急がない力」です。この記事は、作家で精神科医の帯木蓬生（ははきぎ ほうせい）さんへのインタビューで、「ネガティブ・ケイパビリティ（負の能力）」の重要性を指摘しています。記事の一部を紹介します。

～ネガティブ・ケイパビリティとは、「答えの出ない事態に耐える力」のことです。世の中は明確な答えのある問題ばかりではありません。むしろ人間社会は、解決できない問題の方が何倍も多いのではないですか。先が見えず、どうしようもない不安に耐えながら、熟慮する。答えが出なくても問題に挑み続ける力こそ、ネガティブ・ケイパビリティです。

これに対し、正の能力、ポジティブ・ケイパビリティは、答えをみつける問題解決能力をさします。学校教育もそうですよね。テレビでクイズ番組を見ても、記憶した答えを素早くはき出すことを競います。でも、多角的、長期的な視野でものを考えることも大事です。早く答えを出すと見落とすものがあるからです。

今ここに、理解できないものが出てきたとします。ヒトの脳はわからない状態に耐えられず、すぐにそれが何かを決めつけて、理解したつもりになろうとします。ノウハウ、マニュアル、ハウツーものが歓迎されるのは、悩まなくてもすむからです。だけど、そこには落とし穴がある。深い問題が浮かび上がらず、浅薄な理解にとどまってしまうのです。～

すぐに答えを出そうとすると決めつけや浅い理解にとどまるが、答えの出ない事態に耐えるうちに可能性が見えてくる。そして熟慮することは、他者を思いやる共感や深い理解にもつながっていく。帯木さんは、「ただ、『耐えろ』と言っても、なかなか耐えられるものではありませんよね。同じ意味ですが、『ネガティブ・ケイパビリティ』と言えば、『これも能力なんだ』と思って安心します。この言葉を頭の隅に置くだけでいいんです」と言っています。

年頭にあたり、皆さんは、目標を立て、それに向かって果敢に挑戦していくことと思います。ぜひ「ポジティブ・ケイパビリティ（正の能力）」を高めてください。と同時に、答えの出ない状況に向き合った時には、「ネガティブ・ケイパビリティ（負の能力）」も発揮してください。皆さんのたくましい成長を期待しています。

最後に、3年生の皆さん、今週末実施の大学入学共通テストや各大学個別入試受験に向けて、体調には十分気をつけて、第一志望合格を目指してベストを尽くしてください。既に進路が決まっている生徒は、4月からはじまる新生活の準備や自分を高める有意義な時間にとともに、仲間を心から応援してください。何かあったらいつでも学校を、先生方を頼ってください。現役生は受験の当日まで学力が伸びます。努力を続けてください。「継続は力なり」「努力は裏切らない」です。私も応援しています。

以上で3学期始業式の私の話を終わります。